

題 言

秋 來 る

土用の三日目には秋風が立つと古人は傳へてゐる。八月申頃の暑い日であつたが、青山の通りをバスで通ると、明治神官の參道に、夕陽を浴び乍ら赤トンボがすいすいと飛んでゐるのを見た。參道の兩側の高く聳ゆる櫛の梢が支へてゐる空は、かぎりなく青く澄みわたつて『秋』を覺えしめる。

日中はまだ暑さが収まらぬけれども、朝夕の風は云ひしれぬ冷氣を送つて、ゆるんだ肌を、心をひき緊めてくれるかの様だ。葉末に玉なす露、しけき蟲の聲、まさに秋は來た。收穫の時、いざ鬨はんの秋だ。我等はこの秋に於て、何ものかを闘ひとることを期さねばならぬ。

長江了一君の死

僚誌「エンジニア」主幹長江了一君、忽巧として逝去された。君資性豪放にして磊落しかも溫和にして大家の風采を備へて居つた。而して我等と業を同じうすること十有二年、筆を持つ人の少きわが技術界に筆を以て奉仕したその始終の功は決して尠くはない。われ等は未だ壯年の君が將來に期待する處多かつたのに、それを裏切つて不歸の客となつてしまつたのだ、秋立つと共に淋しさ一層限りないものがある。

今や我等が私かに且ひたすらに希ふ處は、同君の靈が尙わが土木操觚界に止つてその正常なる發展を守られんことのみだ。

請負業界多年の懸案

八月九日附の某紙は、錦華人絹宇品新工場の建築工事請負入札に當つて、突如一部業者間に見積料要求の聲が起つてゐると報した。即ち、新築される同工場は總延坪二萬坪に近い大建築で、その見積には人件費、交通費、その他一切の費用を合算すれば一千圓に近い見積費を必要とする、然るに入札の結果落札

者以外の被指名者には從來凡ての工事入札の慣例にみて「遺憾ながら……」の葉書一枚で片付けられてしまうのだ。これは甚だ不合理な話である、果して請負業者はこの實情に泣き寝入せねばならぬものであらうか、否よろしく大同團結してこの不合理を撤廢し、業者自らの立場を擁護せよと云ふのである。

しかし之は單に錦華人絹の建築に就て初めて起つた問題ではない。既に業界の客觀狀勢は競争入札の弊を問題にし、且つその間に於ける所謂談合なる方策を非として以上、更に又請負業が立派なる組織を持つ近代的實業として現代の社會に重要な位置を占めてゐる以上、之が打開の合理的方策は既に確立されてあつて然るべきだつたのだ。寧ろ今日まで此問題が表面化せず、且つ何等具體的解決策も樹てなかつたのは業者自身の怠慢だと云つて差支へないであらう。

我等は此際この問題が眞劍に究明され、業界共存共榮の見地から満全の解決策が確立されんことを切望してやまぬものだ。

伊藤萬ビルの建築

本號所載伊藤萬商店の建築は、商店建築として他に實例の少い程大規模な點、その内容設備の充實した點、その基礎工事に我國の建築としては最初の潜函工法を採用した點に於て既に知られてゐる。而して設計者たる小笠原錫氏をして次の如く叫ばしめてゐる點に於て斯界に一轉機を紹來した建築であると云へよう。

『此工事に際し痛感した事は近來世相の變化により建築工事も以前の様に在來の習性による請負方法では到底スムーズに又優良に施工出来ぬ様になつた事である。特に相當長期に亘る工事に於ては今日の如く物價變動の甚敷く且つデリケートな有様では一般的の所謂請負と云ふ様な方法は全然之を唾棄すべきである。云々』

× × ×